

第1回福井ゼロカーボン・ウェルネス住宅(仮称)基準策定委員会 議事要旨

日 時:令和6年6月17日(月) AM10:00~12:00

場 所:福井県庁 2F 中会議室

出席者:策定委員会 浅利委員、岩前委員、菊池委員、羽場委員、松永委員、桃井委員(五十音順)

1.開会

田中土木部副部長(建築)挨拶

2.委員紹介、委員長選出

委員長に岩前委員を選出

3.議事

議事(1):資料1、資料2について事務局より説明

(委 員) 県内工務店の住宅建築シェア率が徐々に下がってきている原因は何か。

(事 務 局) 全国展開しているハウスメーカーは ZEH などの普及について営業が進んでいる。また、価格の面からもハウスメーカーに着工が流れていると考えている。

県内工務店には県独自の基準を定め、普及させ支援を行っていきたいと考えている。

(委 員) 県内工務店の力不足とは思っていないが、大手ハウスメーカーはわかりやすい媒体で金額や耐震等級、省エネ性能などを上手にアピールされる。そうすると、消費者は自身の経済状況から建てられる家をイメージしやすいので、ハウスメーカーに流れていくのではと思っている。

(委 員 長) 少し補足すると、ハウスメーカーは断熱等級5を標準化してきている。今回の基準は案では断熱等級6以上、ハウスメーカーが標準化している基準よりも一つ上を目指そうとしているのでハウスメーカーから県内工務店へ消費者は戻せるのではないかと思う。

ローコスト系のハウスメーカーもシェアを伸ばしてきているので、コスト増に対するメリットをいかにアピールするかが重要になってくる。

(委 員) 資料2でヒートショックの説明があったが、お年寄りの方は既存の家に住んでいるので、既存住宅を改修する方がヒートショック防止として現実的かと思うが、シミュレーションは既存住宅でも行うのか。

(事 務 局) シミュレーションは既存住宅でもいろいろなパターンの条件を設定し行う。

(委 員 長) 資料には部屋間の温度差をなくすと書かれているが、温度差があることが問題ではなく、低温の部屋があることが問題である。家中が低温であることも部屋間の温度差がないことになるので、“部屋間の温度差をなくそう”というよりも“低温の部屋をなくそう”と伝える方がよいと考える。

(委 員) 鳥取県が独自基準をつくったときにどのように PR したか鳥取県地球温暖化防止活動推進センターの人に聞いたことがある。

ヒートショックの事例を用いて、ヒートショックで10人倒れるとするとその内お亡くなりになる方は1人ぐらいで、残りの9人から8人は何らかの障害が残る。ということは介抱しないといけない人は80%ぐらいいる。そうすると、当人だけではなくその家族、若い世代の方にも重要な話題になっ

てくる。おじいちゃんおばあちゃんが快適に過ごすということは私たちの今後の生活にも関わってくるとPRしていると聞いた。

- (委員) 新築住宅に関してはここ最近かなり性能が上がってきている。高性能なサッシ、断熱材が出てきているので、新築住宅の省エネ基準のクリアや ZEH にすることのハードルは高くない。問題は既存住宅の改修で、新築住宅のレベルが上がっても既存住宅の省エネ改修が進まなかったら、福井県全体の省エネレベルの水準は上がっていかない。
- 既存住宅の改修をどうやって行っていくかが一番難しいので、新築住宅と別枠にして考えていく必要があると思う。少し話はズれるが、今年1月に能登半島で起きた大きな地震があつてから、県民の皆さんも耐震改修に関心を持っており、耐震診断や耐震改修を希望する人が増えている。
- 耐震改修と省エネ改修を組み合わせる考えられないか、耐震改修する際は、省エネ改修も同時にできることなので、その辺りも上手に組み合わせるってはどうか。

- (委員) C 値に関しては住宅が建ててからでないと測定できないので中々ハードルが高いと思うが、その辺りどのように考えているか。
- (事務局) C 値に関しては、関係団体の方にヒアリングしながら、実際の現場でどのような実務をしているか意見等を踏まえて、今後検証していきたいと考えている。
- (委員長) 気密性能 C 値に関しては意見で出た通り今後どのような形で条件化していくのか、あるいは、もし求められる場合はC値 1.0 以下が望ましいと推奨程度にするのか、最終的に難しいところであるが、何もなしというわけにはいかないと思うので議論が重要かと考える。

議事(2):資料3について事務局(協議会)より説明

- (委員) 資料では家族4人(大人2人、子供2人)でシミュレーションを行うとあるが、最近は単身世帯がすごく増えている。全国的にも一番多いのは単身世帯で、福井でも高齢者や若者の方の単身世帯が増えているのではないかとと思う。
- シミュレーションするにあたって、単身世帯向けのもう少し小さい住宅でシミュレーションしてもいいのではないかとと思うが、それは可能か。
- (事務局) 単身世帯のシミュレーションに関しては、設定条件を変えれば簡単に行うことができる。間取りなどの設定は県と打合せしながら設定したいと思う。
- (委員) 単身世帯が多いということで、既存住宅の断熱改修が有効になってくると思うので、単身世帯のプランもあった方がいいと思う。
- (事務局) 既存住宅の改修に関しては、シミュレーションで部分改修などの設定もできるので、対応可能である。
- (委員) 単身世帯が多いとのことだが、若者の集合住宅で住む割合と単独の高齢者の方が住む割合が合わさってしまっていると思われるので、その辺の割合の仕分けも必要と感じた。その辺を見極めて、どういった条件設定が必要になってくるのか検討の余地があると思った。

- (委員長) その割合に関しては県としては把握しているか。
- (事務局) 特に現時点で把握していないが、福井県の住宅はどちらかと言うと、大きい住宅が多く、子供が独立して親だけが家に残ってというのをよく聞く。必ずしも高齢者の方が、狭い小さな住宅に住まわれているとは限らず、逆に、大きい住宅に高齢者の方が住まわれているパターンも多いのではないかと思う。
- そういった意味でも改修の条件設定は充分検討しなければいけないと思っている。
- (委員長) 高齢化に伴う社会の問題であるので、必ずしも福井県の状況ではなく、全国的な状況を参考にしつつ、関係団体等への聞き取りで福井県の実態把握ができればいいと思う。
- (委員) 新築住宅の家族 4 人世帯と単身世帯では使う熱量も異なりシミュレーション結果も違うと思う。単身世帯の例示が1つでもあった方が、イメージが付きやすい。
- (委員) 換気設備について、換気が悪いと感染症が増えるイメージがあるが、気密性能が高いとカビが減ったりすることはわかったのだが、感染症ウイルスに関して換気設備の役割というのはどのように考えているか。
- (事務局) 換気設備には主に第3種換気、第1種換気があるが、感染症ウイルスに対してどのような効果があるか一度シミュレーションしてみて、どのような影響があるか検証してみたいと思う。
- (委員) 感染症ウイルスを住宅の中で感染を防ぐというのはなかなか難しいと思う。
- 例えば、個別のエリアで換気して、そこから空気が廊下側に出てこないようにするといった対策があるが、なかなかハードルが高いところと思う。
- (委員長) 福井県は大きい家が多いと言う話があったので、例えば客間があればそこだけをエリア分けするといったことはできるのではないかと思う。
- (委員) 資料の中で日射遮蔽に関しては、福井県独自の基準では特に示さないということだが、ここ最近の夏の暑さは異常で、今後は考慮しなければいけない課題の1つだと思う。そういった中で日射遮蔽に対してどのような対策が必要なのかと言う事は、福井県においても考えていく必要があるのではないか。
- (委員) 基準にいれるかどうかは別として、冷房の効きの違いを示してあげるといいと思う。
- 住宅内のカーテンよりもすだれやグリーンカーテンなど外の遮熱の方が効果がある。そういう提案を付属資料でもいいのであるといいと思う。
- (委員長) 言うとおりで、何もかも数値化する必要はない。
- また、夏の夜の過ごし方も、窓を開けて風を通して寝ると健康にいいと思われている方がいるが、そういったライフスタイルは睡眠障害のもとになり、体力が奪われ、日中の熱中症にもつながるというリスクがある。断熱性を上げて冷房をかけて寝られるような空間づくりを進めていくことはウェルネスの観点から非常に重要かと思う。エアコンをかけたまま寝ると風邪をひくと言われているが、それは断熱性が低い場合である。

議事(3):資料4、資料5について事務局より説明

- (委 員) 500 社に送付してどれぐらいの業者が回答してくれるのか懸念している。過去にこのような事業者に対してアンケートを取った実績はあるか。その時の回答率はどうだったか。
- (事 務 局) アンケートの項目自体は 50 項目程度であるが、大項目の最初が「いいえ」という回答をするとそれに紐づけられている項目が非表示になるなど、簡単に済ませられるように工夫はしているので回答率が良いことを期待している。
- (委 員) はがきの QR コードを読み取って回答するということであるが、そういう回答方法に慣れていない事業者は一定数いると思うが、そういった事業者に対しての救済措置はあるか。そういうことが苦手な事業者は、必然的に対象外になってしまうが、どうか。
- (事 務 局) 紙での回答についても検討する。

議事(4):資料6について事務局より説明

第1回全体を通しての意見

- (委 員) キャッチコピーやロゴマークをつくるなどして、わかりやすくしていくと良いのではないかと思う。
- また、認定住宅となると、県民はもちろんいいと思うが、どうしても費用がつかってくる。高い基準を推奨してもそれに対する支援がないと県民はついてこないのではないか。
- (事 務 局) 第2回の策定委員会では支援・普及のあり方に関して議論させていただこうと考えている。国も様々な支援策を行っている。県は、どういう部分にどういう支援を行うかは、施策として考えなければならぬ部分であるので、次回委員会で様々なご意見をいただければと思っている。
- 普及の方法も、最終的に県民の皆さんがどんなメリットが得られるのかということもミュレーションの結果も踏まえて議論させていただきたいと思っている。
- また、県民に直接窓口で対応するのは事業者の方なので、事業者の方々がきちんと理解して、県民にしっかりと説明できるように、事業者のレベルアップを図るところまで取り組んでいかなければいけないと考えており、それが最終的には福井の住宅産業の育成につながると考えている。
- そういった部分も、次回策定委員会で考え方を示させていただいて、いろいろご意見いただきたいと思う。
- (委 員 長) 新しい基準ができる注目を集められるので、これを機会にさまざまな情報を準備しておくことが必要かと思います。

第2回委員会について

- (事 務 局) 次回委員会は 10 月上旬を予定している。出席をお願いする。